

大学改革としてかつてないインパクトのある統合・再編が、関西で実現する。大阪府立大(府大)と大阪市立大(市大)が来春統合し、大阪公立大が誕生する。

大阪商業講習所を源流とする市大、獣医学講習所の流れをくむ府大とも、140年前後の歴史を持つ総合大学だが、統合で1学域・11学部に再編。学生数は約1万6

の辰巳砂昌弘・府立大学長は「公立の特徴となる機能を生かした、新しいタイプの大学を目指す道だ」と強調する。

防災・減災など都市問題解決を見据えた都市シンクタンク機能の充実が、公立大ゆえだろう。

もう一つの柱は「技術インキュベーション」。「地域に必要とされるには世界に認知され、世界と



今日の話題

大阪公立大

千人となり、学部入学定員数2853人は国公立大で大阪大、東大に次ぐ3番目の規模になる。

キャンパスは現在ある5カ所とサテライト1カ所に分散するが、2025年に大阪市内の大阪城東側、森之宮地区にメインキャンパスを新設する運びだ。

統合の道のは府と市の二重行政解消を訴える「大阪都構想」に端を発する。ただ、初代学長予定者

互する研究大学でありたい」と研究水準向上を掲げ、「英教育専門誌の世界大学ランキングで200位以内を目指す」と鼻息も荒い。

道内でも帯広畜産大、小樽商大、北見工大の国立大3法人が来年4月に経営統合するが、大阪と違って運営法人を統合する形だ。さまざまな形で進められる大学改革。一つの先駆けとして、西に目を向けてみたい。

(武田 亮一)